

令和5年度 市長のタウンミーティング実施報告書（天神地区）

会場名	天神公民館	日時	11月7日(火) 19時00分 ～20時45分
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画部長、総務部長、産業建設部長、民生部長、教育委員会事務局長、情報広報課長、地域協働課 協働推進係長、情報広報課 広報広聴係長(司会)		
参加者数	33名	YOUTUBE 動画	視聴者数(最高時点) 14人 チャット(投稿数) 0件



1.市長講話

市長 村椿 晃「自治基本条例・各地域におけるコミュニティセンターについて」
(20分程度 資料に基づき講話)

2.意見交換(地区からの提言・提案等について)

○ 利用料金をいただいている体育館は利用率も高いので、ワックスがけの予算を5年に1度ではなく、毎年にしていただけないか。地域負担があってもいい。利用料の還元を感じられない。
(村椿市長)

令和6年4月の全地区コミュニティセンター化することを踏まえて、地域がより積極的に活動できるような応援をするための予算特別枠を考えています。今はまちづくり交付金がありますが、その地域の実情に応じて、課題を解決できるような、応援枠みたいなものを、これからの予算編成の中で、考えていきたいと思っています。

○ コミュニティセンター化が順調に進んでいる振興会と、なかなか難しい振興会があると聞いているが、足踏みしている地域には、今後どのように対処していく予定なのか。行政の方というのは、経営や営業的な感覚というものが民間に比べると少し弱いのではないかと。より具体的に民間の経営や営業的な感覚のすぐれた人を採用したらどうか。
(村椿市長)

順調に進んでるところと、ちょっと足踏みしているかもしれないところが確かにあります。どうア

アプローチするかということは、不安要素を取り除くに尽きると思っています。全て市から任されて、突き放されるのではないかという感覚で受けとめてる方が多いのではないかと考えています。そうではなくて、基本的にこの施設の維持費や職員さんの人件費等は市が全額、保障して出していきます。

その上でどうやって自由な地域活動を展開するかというのがコミュニティセンターです。県内外の事例もありますが、そういったものを丁寧に説明して、ご理解いただけるよう何回も丁寧に話をし、理解を深めていくことが必要だと思っています。

○ 人口が黒部市より少なくなった。地価が高すぎるという話もある。何か対応策はあるのか。
(村椿市長)

この10月で黒部より少なくなりました。魚津市からの人口移転の状況を見ると、一番多いのは富山市、次は滑川、次は黒部です。滑川市に移転する理由としては、一つはやはり地面の値段。土地が安くて宅造の供給量が結構多いので選ぶことができる。さらに富山に近い。職場に近いことが一番ということだそうです。黒部は、そういう意味でいくと富山よりも遠いが、企業的な要因もあるような気がします。どうしても地面の値段、地価は、魚津は、平均的には高い。便益施設や飲食店も多く、どうしてもそういった歴史的な積み重ねがあるので、地価は高めに出てきます。我々も、特に若い世代に住んでいただけるような施策をいろいろ取り組んでいます。直接地価を下げる手法は難しいので、施策について部長から紹介します。

(産業建設部長)

令和3年度予算から、特に若い世代の住宅取得を応援しようということで、子育て世代、いわゆる中学生までのお子さんをお持ちの世帯、新婚世帯(結婚2年目、2年以内)の世帯に対し、市内どこで建てられても、取得された価格に対して一律50万円を応援しようということをやっています。さらに、立地適正化計画という計画を立てて、居住の誘導区域というものを市街地に設けてそこに自宅を求められた方は最高100万円ということをやっています。子育て新婚世帯の住宅取得支援の補助金は41件の方に交付をしています。うち転入者、市外から来られた方には、16件の交付をしています。令和4年は、56件。うち転入者は14件ということになります。令和5年今年で3年目になりますので、より良い制度で魚津市に住宅を建ててもらえるように今後しっかり考えていきたいというふうに思っています。

(民生部長)

子育て支援ということで、保育料の無償化を今年度の9月から実施をさせていただき、また保育園に預けず自宅で育てていらっしゃる方に対しても、1ヶ月2万円という補助金を交付しており、より多くの方に、子育てしやすいまちと感じていただけるような施策を進めております。また、民間と協働いたしまして、新生児のおむつの宅配、産後ヘルパー派遣事業というものも実施しています。また魚津市は不妊治療、保険の適用の治療に関しては、自己負担ゼロで補助しております。

○ 若い女性の転出が多いのは、進学、就職、結婚などの理由なのか。対策は。
(企画部長)

富山県全体がものづくりの県ということもあり、特に大卒の女性の方々が働く場合に限界があるとは感じておりまして、従来から市長も、女性が働く場をしっかりと企業の皆さんと連携して、

何とか作っていこうといったところを今取り組んでるところでございます。市としても市だけではなく、地域の皆さん、そして企業の皆さんともしっかり勉強して、包括連携協定等も結ばせていただいています。どんどん地域の魅力、そして魚津市の魅力を伝えて、帰って来られる方、女性の方に限らず、若い男性の方々、そして地域で頑張ってる方々が出ていかないうようにも頑張っていきたいというふうに思います。

(村椿市長)

総合体育館の近くにある、生協さんの東部センターでは、配送車が全部で50台あまりあり、女性の方が配送してらっしゃると思います。先ほど民生部長がお話した、おむつを新生児にお届けしてやってるのは、生協さんとの連携で、我々としては企業連携だと思っています。もう一つは、今年の6月にサンプラザの1階に、エスプールのグローバルさんというサテライトオフィスを開設しました。そこがやっている業務は、行政、民間のアウトソーシング、外に出してもいい業務を請負う、そういったサテライトオフィスで、とりあえず10名新しく雇用していただきました。我々としては、何百人といった、そういった企業を呼んでくるのはなかなか現実的に難しいですが女性の方が働けるような事業所を一つも二つでも呼んでくるということ、地道に今やっています。

○ この地区には学校がなく、この地区にはここ(公民館)しかない。ここでコミュニティセンター化して、有料事業で実績を上げて、指定管理をして事業で生まれた資金を使って展開していくかっていうと、一番難しいところ。地域の方々、早くても65歳まで仕事をされる時代がやってきており、地域で集まって何かをしようとしても、なかなか人は集まりにくくなってきている。一番可能性として高いのは、地域の高齢者を地域で、といったことが実効性のある事業だと思います。市で具体的な内容まで詰めていただければいい。また公民館の立て替えについては？

(村椿市長)

地域のいろいろ事情や背景が違うので、一律に同じような展開ということではないということはおわかります。リニューアルの話から言うと、施設そのものは市の施設なので、そういう時期が来たら、建て替えなど、市が責任をもってやります。高齢者の方への支援、B型といったお話については、条件などについてしっかり検討していきたいと思っています。今ほどおっしゃったような研修、人材、人の育成も含めてですが、またしっかり考えていきます。

○ 防災の関係で個別避難計画にある、「要支援者」の定義が総務課と社会福祉課で違うのではないか。

(総務部長)

まずは高齢の方、それから高齢の方で元気な方については、そこから除いて、さらに抽出した方々に対して対象にしていくというような形で、今現在は特に高齢者の見守りネットワークで、民生委員さんですとか、福祉推進員さんの方々の見守りの対象となっている人から、個別避難計画の作成を図ってきております。引き続き地域の方のご協力がないと進められないというものでございますので、ぜひご協力をお願いしたいと思っております。社会福祉課とは、連携してまた取り組みたいというふうに考えております。

○ 市民バスの更新について

(産業建設部長)

平成24年だと思いますが市内一斉に購入をいたしまして走らせており、今もは40万キロを優に超える走行距離でございます。エンジンの故障、ドアの故障、心臓部の故障も頻繁に起きているという状況でございます。今後は、国の財源も活用して、年間2台ずつ更新をやりましょうということで今現在2台ずつ更新をしています。もうしばらくお待ちいただければと思います。